

出雲半二
海音宗輔
淨瑠璃傑作集索引

(主要の事物人名思想等を採り
發音に依り五十音順に排列す)

ア

- 安曇文次宗秀—入鹿討伐 四三八ノ九
- 安部行主—蝦夷子邸へ勅使 三五四ノ二〇
- 天河屋義平
敵討武具の用意 二八六ノ二
- 天河屋の義平は男でござる 二九二ノ二
- 安徳天皇
平知盛擁し奉る 二九一ノ二
- 義經に入水を救はれ給ふ 一四三ノ二
- 御出家 二〇五ノ二〇
- 嗔の權太
六代を騙る 一五三ノ四

イ、井

- 維盛夫婦を生捕る 一六九ノ四
- 父に討たる 一七〇ノ八
- 本心 一七〇ノ五
- 石堂右馬之丞—判官館へ上使 二二一ノ二四
- 飲食
獻立 六四一ノ六
- 櫻飴 二七〇
- 七十の賀の料理 六一ノ三
- 茶筌酒 六〇ノ九
- 釣瓶鮓 一五九ノ三
- 手打蕎麥 二九四ノ四
- 名酒男山 四四四ノ二
- 彌助 一七五ノ二〇
- 岩川次郎吉
禮三錦木の世話 三八ノ五
- 住居 三四ノ三
- 鐵が嶽に足蹴にせらる 三八ノ三

ウ

- 苦衷 三三〇ノ一
- 鐵が嶽を土俵に投ぐ 三三三ノ五
- 妻の心中立 三三三ノ三
- 村岡國右衛門を縛す 三七三ノ二〇
- 宇佐美五右衛門—御前試合歎願 五〇五ノ一
- 采女の局
天智天皇へ奉侍 三七七ノ二
- 禁庭出奔 三八三ノ四
- 入水の噂 三八七ノ五
- 帝に對面 四九一ノ二
- 海野土佐坊
義經を攻む 一三三ノ三
- 辨慶に生捕らる 一三三ノ一四
- 運命
天命 二四一ノ七

有爲轉變の世

一三三ノ五

死後の結婚

四四ノ五

運命と死

五〇〇ノ一〇

武士と容貌

六三六ノ七

平家の運命

七四ノ四

天命歸す

七四ノ二

○梅王丸

名の由來

六ノ五

菅秀才を盗出す

二六ノ六

御臺の行方を尋ぬ

五三ノ二

車争

五五ノ九

容貌

六三ノ四

父の賀に至る

六六ノ一

松王丸と争論

六六ノ五

父へ願書

六八ノ二〇

筑紫下り

七九ノ三

エ、エ

○縁

逆縁

五ノ九

縁は縁恨は恨

二八三ノ一

二度の勤

三六ノ一

○縁語

星

六四九ノ二

鮎

二七ノ八

いろは

九七ノ三

相撲

三三七ノ二〇

町

三三ノ五

○厭世—熊谷直實の出家

七六ノ四

○鹽冶判官高定

二〇七ノ七

足利直義公の御馳走役

二〇七ノ七

刃傷

二二七ノ四

閉居

二二〇ノ一

切腹

二二二ノ二〇

オ、ヲ

○お石

由良助山科閉居

二七三ノ一

力彌に小浪と祝言さす

二七九ノ六

加古川本藏の首を所望す

二七九ノ四

○お岩—岩川への心中立

三三三ノ三

○大星由良助

鹽冶判官の遺言

二二二ノ一四

屋敷明渡し

二二六ノ二

祇園の茶屋遊

二二六ノ四

おかるの身受

二二五ノ二

平右衛門に東の供を許す

二二八ノ一〇

山科閉居

二二七ノ一

力彌小浪の祝言

二二九ノ六

本藏夫婦に眞意を示す

二二三ノ二

師直屋敷の案内圖

二二四ノ一

山科發足

二二五ノ五

天河屋義平の義侠に感す

二二二ノ六

師直縮夜討

三〇一ノ六

復讐

三〇三ノ六

○大星力彌

鹽冶判官より若狭坊へ

二二五ノ二

口上

二二六ノ三

一方の父に遇ふ

二二七ノ六

小浪と祝言

二二七ノ六

本職を刺す 二八一ノ九
 山科發足 二八五ノ六
 天河屋義平を訪ふ 二八七ノ五
 夜討 三〇〇ノ四
 ○岡部六彌太忠澄 六五九ノ九
 義經館へ參上 七四ノ九
 忠度最期の物語 三三ノ六
 ○おかる 二四五ノ二
 勘平に遇ふ 二四八ノ三
 祇園町へ勤奉公 二六五ノ三
 勘平との別れ 二六七ノ三
 由良助に身受せらる 三三ノ二
 兄に斬らる 三三七ノ六
 ○お才 三三七ノ二
 禮三を慕ひ來る 三三七ノ六
 禮三と假住居 三三七ノ六
 村岡團右衛門の無體の戀慕 三四七ノ九
 禮三郎の本妻となる 三七四ノ一
 ○お里―彌助を慕ふ 一五九ノ四
 ○お七

吉三郎と契る 五三三ノ四
 住持の慈悲 五三三ノ四
 母の祝言話 六〇四ノ一
 亂心 六〇八ノ二
 放火 六〇八ノ三
 入牢 六〇九ノ二
 父母の悲嘆 六〇九ノ三
 吉三郎との永別 六五ノ二
 火あぶり 六六ノ七
 ○お袖 五九ノ二〇
 志津馬を見初む 五九ノ二〇
 和田志津馬を我家へ誘ふ 五四六ノ五
 尼となる 五六七ノ一
 ○おその 二九四ノ七
 ○お谷 五〇七ノ五
 唐木に離縁せらる 五〇七ノ五
 祝言の給仕 五三ノ六
 夫の本性 五二七ノ一
 夫の跡を慕ふ 五五九ノ二〇
 ○緒環塚―由來 四七ノ一

○お千代 六二九ノ三
 夫に遇ふ 六三〇ノ四
 姑に離縁せらる 六四八ノ二
 道行 六五〇ノ二
 心中 六五二ノ六
 述懐 六五二ノ六
 ○おとは―夫岩川の身の上を案す 三三〇ノ九
 ○斧定九郎 二四二ノ九
 與一兵衛を殺す 二四三ノ七
 勘平に討たる 二六二ノ九
 ○斧九大夫 二六八ノ一四
 由良助を試む 二六二ノ九
 最期 二六八ノ一四
 ○お三輪 四五〇ノ七
 星祭 四五〇ノ七
 求馬の跡を慕ふ 四四四ノ二
 入鹿の館へ入る 四六五ノ六
 鱈七に殺さる 四六九ノ八
 ○恩愛―肉身の恩愛 五五五ノ六
 ○音樂、樂器

青葉の笛

七〇三ノ五

同

七九ノ九

尺八

二七八ノ三

陣中の管絃

六七ノ三

初音の鼓

一〇六ノ八

同

一九ノ六

○恩義

恩にも戀は代へられぬ

四六四ノ二

三つの品

五六ノ三

○女

女の一念

四三ノ二

女は嫉妬に大事を洩す

一六ノ八

官女生活

四六ノ八

鼻先了簡

四七ノ四

花ならば初櫻

六二ノ九

○親子

逢初の逢納め

五三ノ二

因果

二五ノ八

産みの親と養ひ親

三九ノ三

親子と名づくるは人間

四三ノ四

の私事

親の罰

一六二ノ二

親一人子一人

四六ノ三

奇遇

五〇ノ六

義理

三ノ八

同

七ノ二〇

子は三界の首枷

六二ノ七

子故の闇

二九ノ八

同

五七ノ二〇

子を殺す親

一七〇ノ三

盗人を捕へて見れば我

六八ノ八

子なり

六八ノ八

母の餓別

六七ノ二

不思議の對面

九七ノ四

武士の子に町人

六三ノ七

三つ子と扶持

五九ノ五

娘持つたる親御達

六二ノ二

名僧の引導より我子の

五三ノ一

介抱

五三ノ一

持つべきものは子なり

九五ノ九

○お米(瀬川參照)

夫の爲の盗心

五三ノ一

兄妹の奇遇

五三ノ六

敵の手がかり

五三ノ一〇

カ、クワ

○怪異

敦盛の幽霊

七五ノ二

菅丞相の鳴神

八ノ三

狐忠信

一八七ノ一三

源九郎狐

一九四ノ四

庚申の御告

六三ノ二

御符の徳

五三ノ二〇

殺生石

三〇ノ六

玉藻前

三〇ノ四

初音の鼓

一九ノ六

笛の音

四七ノ九

亡霊

一〇〇ノ二

木像の身代り

四九ノ一

幽霊の話

五八ノ四

雷鳴

九九ノ四

靈夢

七ノ八

○繪畫、畫工

顔輝 四ノ二

重盛の繪像 一〇九ノ四

○顔世御前 二〇八ノ二四

鶴ヶ岡兜改め 三三ノ二〇

判官切腹 三三ノ二〇

○書置 六四ノ二

義經妻京の君の書置 六三ノ三

離別されし女 六三ノ三

○覺壽 三ノ二

刈屋姫立田前を折檻す 五ノ三

逆縁 一八ノ五

○覺範——山の評定 一七ノ四

○學問 四四五ノ三

學問所 二七ノ九

早學問 三九ノ三

○加古川本藏行國 三二ノ二

若狹助館 三二ノ二

松を切りて若狹助に示す 二七ノ九

師直へ直談 三九ノ三

由良助へ我首を聳引出 三九ノ三

とす 二八〇ノ七

○敵討 合詞 五八〇ノ六

助太刀の手段 五七ノ一

○形見 忠度の片袖 六九ノ七

亡父の形見 三三ノ五

○梶原景時——京の君畧奪 六三ノ二四

○梶原平次——最期 七三ノ五

○梶原景高——平忠度召捕の討手 六九五ノ四

○金輪五郎今國(饜七参照) 六三六ノ五

○嘉兵衛 八五ノ二

○菅秀才 九四ノ九

○菅源藏の寺小屋 九六ノ一四

○菅秀才 一〇三ノ四

○菅丞相(藤原道真を見よ) 一八ノ二三

○勘當 同 四八六ノ二

○歌謠 一四三ノ二

安徳帝の御製 六五ノ七

お千代の辭世 四四ノ八

音頭 七四ノ七

熊谷入道の詠歌 四三ノ一

住吉踊の唄 六六ノ七

忠度の詠歌 三九ノ四

天智天皇の御製 四〇八ノ八

萬歳 四三ノ五

春駒 二〇ノ一

人丸の詠歌 四二ノ二三

船唄 四五〇ノ二

星祭の歌 四六ノ六

馬士唄 五三ノ五

道眞の詠歌 七七ノ九

同 八〇ノ三

同 二〇ノ一

道眞の詠詩 四三ノ七

六齊念佛 六五ノ七

脇田半兵衛の辭世 六五ノ七

○唐木政右衛門

山田幸兵衛に邂逅

五三〇七

妻を離別す

五〇七五

祝言

五二五九

和田志津馬敵討助太刀

の承諾

五二六三

妻離別の本性

五二七一

櫻田林右衛門と御前試

合

五二〇八

大内記より敵討餞別の

太刀を賜はる

五三〇三

藤川の關を抜ける

危難を免る

五四〇八

生立

五五〇八

我子を殺害す

和田志津馬に邂逅

五五〇二

和田志津馬敵討の助太

刀

五六〇三

○刈屋姫

齋世の宮と契る

五七〇三

齋世の宮と落ち給ふ

齋世の宮と道行

八〇五
二二〇九
二八〇一

齋世の宮と離別

三三〇二

立田の前に邂逅

三四〇一

覺壽の折檻

三八〇二

父に別る

五三〇五

○川越太郎重頼—義經へ直

談

二六〇七

○河連法眼—一山の評定

二七〇五

キ

○義

義士

二四〇二

義者の誠

二五〇二

○祈願

御願の立願

七三〇九

三つ柏の占ひ

四三〇七

○菊の前

父俊成の使者

六五〇一

忠度の跡を慕ふ

六九〇二

離別

六九〇五

鎌倉著

七九〇三

忠度の戦死を聞く

七三〇二

○祈誓 夫の敵討

七四〇九

起請文

五九二〇

主上守護の祈誓

八一〇六

○北野屋七兵衛

三六〇八

○吉三郎

お七と契る

五八三三

十内の諫言

五九〇四

住持の慈悲

五九三〇

父の骨桶を拜す

五九五三

お七宅へ忍ぶ

六〇〇八

お七の祝言話

六〇三三

煩悶

六〇五二

自害

六二〇六

○金錢 金で頼を張る

二二〇九

非義非道の金

二五〇四

天より與ふる金

二五〇七

○久兵衛

吉祥寺參詣

五九〇二

住宅

五九〇一

お七の火あぶり 六〇九ノ三

後悔

○京の君

北野天満宮へ参詣

六二ノ二〇

○清澄

蝦夷子館へ勅使

三九四ノ二〇

川を隔てて定高と誓ふ

四三三ノ五

我子の捌

四三七ノ四

○兄弟

久我之助の自害

四三九ノ三

○虚偽

太宰家と和解

四四一ノ五

○義理

好色の嘘

五九〇ノ三

實から出た嘘

二六五ノ二

夫の義理

六五二ノ二

親子の義理

七二一ノ〇

敵討と妻

五七二ノ一

義理の親子

三九三

義理より辛い勤はない

三三四ノ七

兄妹の義理

戀の義理

後妻の義理

師弟

主従の義理

二度の勤

不和の中程義理深し

ク

○熊谷次郎直實

須磨の陣屋

熊谷櫻

藤の局に對面

物語

一子を敦盛の身代りに立つ

出家

平時忠を預る

義経館へ参上

我子を救ふ

敦盛の首を打つ

二六七ノ二〇

二二六ノ三

二七八ノ七

五二二ノ二

二〇ノ七

三六ノ一

四九ノ一

七二ノ二

七二ノ二

七二ノ二

七二ノ三

七二ノ二

七二ノ二

七二ノ二

七二ノ二

七二ノ二

七二ノ二

七二ノ二

○君臣

君は船臣は水

玉體

○軍畧―軍慮の奥義

ク

○藝能

修業の金言

筆道

○刑罰

大垣の刑

火あぶり

○結婚

心と心が釣合はぬ

死後の祝言

七歳の花嫁

嫁入の隨一

○賢人―賢人顔

○玄上太郎(芝六参照)

一一六ノ九

一四五ノ二

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

一一八ノ八

○戀

恩にも戀は代へられぬ

四六四ノ二

起請

五八四ノ二四

戀と恨

六三四ノ一

戀に虚偽なし

六三三ノ六

戀の意氣

六〇七ノ〇

戀の義理

二二六ノ三

同

一六六ノ二

戀の手習

五九九ノ三

焦れ死

六五ノ一

忍ぶ戀

六〇〇ノ八

死別の詞

六五ノ二

熱烈なる戀

六四ノ二

初戀

九ノ三

隔つ戀

四三九ノ三

雪の夜道

五四六ノ五

○五右衛門―切腹を企つ

五三ノ三

○高師直

顔世へ附文

二二〇ノ六

本藏の直談

二二九ノ三

桃井若狭助と爭論

二〇七ノ六

若狭助へ謝罪

三三四ノ二

鹽冶判官を罵る

三三六ノ二

最期

三〇三ノ二〇

○久我之助清舟

三七九ノ七

雛鳥を戀す

三八七ノ一

蘇我蝦夷子の詮議

四二九ノ四

勘氣の山住居

四三七ノ四

父の捌

四三九ノ三

自害

二二〇ノ二四

○小金吾武里―御臺に對面

一〇三ノ四

○後白河法皇―八島合戦の

日次調査

八五ノ二四

○小太郎

九四ノ九

寺入

菅秀才の身代り

六七六ノ二〇

一の谷の先陣

七三ノ三

敦盛の身代り

二九ノ九

○言葉

義士討入の合詞

三三三ノ二〇

はさみ言葉

二七ノ二

○小浪

力彌に合ふ

二二四ノ八

道行

二七〇ノ五

力彌と祝言

二七九ノ六

○小雪

青葉の笛

七〇三ノ五

若衆の跡を慕ふ

七〇六ノ四

サ

○相摸

直實の陣へ暮ひ來る

七二ノ四

夫の出家

七三六ノ四

○相摸五郎―義經の討手

一三三ノ一

○櫻―熊谷櫻

七二ノ二四

○櫻田林左衛門

和田志津馬を毒殺せん

五七〇ノ一

とす

敵の計畧に陥る

五七八ノ三

最期

五八〇ノ三

○櫻丸

名の由來

六ノ二〇

齋世の宮刈屋姫の御供

二七ノ二

容貌 六三ノ四

父の賀に參著 七ノ六

切腹の用意 七ノ一〇

自害 七四ノ五

亡靈 一〇〇ノ二

○佐々木丹右衛門 四九五ノ七

上杉の使者 五〇〇ノ三

深慮 五〇〇ノ三

自害 五〇二ノ三

○咄竹 三六ノ一

○定高(サダカ) 三七六ノ三

家名相續願の爲め參上 四三三ノ五

川を隔てて清澄と誓ふ 四三五ノ六

雞島へ入内勧誘 四四〇ノ一〇

雞島生害 四四一ノ五

清澄と和解 一三〇ノ一

○佐藤忠信 一三三ノ八

義經の跡を慕ふ 一七六ノ一四

義經の姓名を賜はる 一八六ノ三

靜御前の御供 義經に對面

狐忠信 一八七ノ三

平教經が首を打つ 二〇六ノ三

○山川 四二九ノ三

妹山 四二八ノ三

香具山 四二九ノ三

背山 四二九ノ二

吉野川 一七七ノ二

吉野山 四七三ノ二

龍岳 四七九ノ三

○澤井股五郎 四八九ノ二

惡計企圖 四九一ノ二〇

和田行家殺害 四九三ノ二

圓覺寺の評定 五八二ノ二

藤川の新關へかゝる 五八二ノ二

和田志津馬に討たる 四九一ノ三

○澤井城五郎 四九五ノ七

澤井股五郎をかくまふ 三四六ノ一

上杉の使者引接 三四六ノ一

○澤田伴龍

○死 四四一ノ五

死後の祝言 六九七ノ七

死すべき時 三六八ノ四

死神 九六ノ二

死ぬる子は媚よし 四三ノ二〇

鷄は死骸の在所を知る 三六五ノ一

名残の世帯 一二四ノ四

○靜御前 一二六ノ一

辨慶の罪乞 一三三ノ一

義經の跡を慕ふ 一七五ノ二

義經との別離 一八八ノ四

道行 五五五ノ一四

義經に對面 五九三ノ三

○子弟 四八四ノ二

邂逅 五三三ノ二

出家の慈悲 四〇二ノ八

○柴垣 四八四ノ二

お谷に會ふ 五三三ノ二

自害 四〇二ノ八

○芝六 天智天皇奉迎

一子の身代り

四三ノ三

忠心の證

四七ノ八

母の慈悲

一六〇ノ二〇

武士と敵

六八三ノ四

佛弟子

五九三ノ三

養ひ親の慈悲

三九ノ三

○時平公(藤原時平を見よ)

四九ノ七

○神器—八咫の鏡

二六五ノ二

○眞實—嘘から出た眞

二六五ノ二

○神社

六ノ三

加茂明神

一〇三ノ二

北野天満宮の縁起

七五ノ六

佐太の社

二〇七ノ四

鶴ヶ岡八幡宮

七三九ノ三

○人生

七三ノ三

憎と悲と喜

六五ノ二

人間の一生はあざなへ

六五ノ二

る繩の如し

二六七ノ六

○洒落

四五ノ三

同

○十内—吉三郎へ諫言

五七ノ六

○十兵衛

五九ノ二

澤井股五郎都落の案内

四九四ノ二〇

父子の奇遇

五三〇ノ六

○春藤玄蕃允友景

二ノ四

○淨久

三二ノ一

禮三を勸當す

三五九ノ二〇

岩川に子の身の上を頼む

六四八ノ三

○情死

六四一ノ三

お千代半兵衛

六四一ノ三

心中話

六二ノ四

○商人

六三ノ四

小家一軒の悔

六三ノ四

庚申の加護

六三ノ二

○白大夫(四郎九郎を見よ)

六二ノ二

○四郎九郎

六二ノ二

菅丞相の愛樹を預る

五九ノ四

七十の賀

七ノ二〇

菅丞相の跡を慕ふ

七五ノ一

菅丞相の愛樹栽培

五八ノ六

ス

○菅原

七〇ノ八

○菅原道眞

一ノ四

才學智徳

二ノ八

武部源藏と永別

二四ノ一

押込めらる

三〇ノ一

流罪

三ノ一

逃懷

三五ノ二〇

河内の屋敷へ入る

三九ノ八

自作の木像

四二ノ六

危難

五三ノ五

出發

七五ノ八

醜所に白大夫と物語

七七ノ八

愛樹の梅

八〇ノ二

時平が叛逆を聞か

八ノ一

主上守護の祈誓

九六ノ二

靈魂

一〇三ノ八

皇居の守護神

一〇三ノ八

○宿禰太郎

道眞殺害の企

三六ノ二四
四一ノ六
四六ノ二三

母覺壽に殺さる

セ

○瀬川

志津馬の假屋に忍ぶ

四七九ノ二

志津馬と伏見の佗住居

五六八ノ五

○關所

千崎彌五郎―勘平を責む

五四三ノ二〇

○千羽川

お才禮三の假住居

五三ノ八

村岡團右衛門詮議

三七七ノ六

村岡團右衛門を縛す

三五〇ノ二
三七三ノ一〇

ソ

○相思の男女

お輕勘平

三三ノ六

お七吉三郎

五八三ノ三

お千代半兵衛

六三九ノ三

刈屋姫齋世の宮

八ノ五

菊の前忠度

六九三ノ二

小浪力彌

二二三ノ一〇

靜義經

一一三ノ二

瀬川志津馬

四七九ノ二

錦木禮三郎

三二ノ七

雜鳥久我之助

三七九ノ七

○僧侶

出家の弟子は子も同然

五九二ノ三

慈悲

五九三ノ三

○蘇我入鹿

大叛逆の本心

三九六ノ一〇

奈良の町人へ受領

四二〇ノ五

壯大なる新殿

四五五ノ三

入鹿の由來

四七〇ノ五

最期

四七四ノ七

○蘇我蝦夷子〔エミシ〕

僞慢

三七五ノ五

鎌足を糺問

三七七ノ四

清舟詮議

三八七ノ一

謀反の連判狀

三九三ノ一三

めどの方を斬る

三九四ノ三
三九六ノ四

タ

○醍醐天皇

平敦盛

一ノ六

玉折姫と祝言

六六九ノ二
六六九ノ一〇

素性

六六九ノ一〇

出陣

六七三ノ七

一の谷の陣所

六七六ノ九

平山武者所を追撃す

六七九ノ一一

熊谷直實に討たる

六八二ノ五

小次郎の身代り

七二ノ五

○平維盛

彌左衛門宅に假寓

一六三ノ三

若葉内侍に邂逅

一六五ノ四

落髮

一七四ノ二四

○平忠度

菊の前の乳母宅に宿る

六八六ノ七

菊の前を離別す

六九三ノ一三

梶原景高の討手

六九五ノ四

○平忠盛

岡部六彌太忠澄の見参 六六ノ三

詠歌千載集に入選す 六九ノ一

○平経盛

時忠よりの使者 六六ノ六

出陣 六七ノ二

○平時忠

神器を密に義経に渡す 六五ノ四

讒言 七四ノ四

謀叛露見 七五ノ二

○平知盛

安徳帝を擁す 一三九ノ一

義経と會見 一四ノ六

六道物語 一四六ノ三

入水 一四七ノ三

○平教經(覺範参照)

義経に看破せらる 一九ノ一

安徳帝に供奉す 二〇ノ四

最期 二五ノ二〇

○平希世

筆道稽古 二一ノ一〇

○武部源藏

菅丞相邸に伺候 一六ノ一

後悔 一七ノ三

筆法傳授 二〇ノ六

道真に別る 二一ノ八

菅秀才を盗出す 二六ノ六

寺小屋 八五ノ二

菅秀才身代りの首を打つ 九二ノ六

○橘姫

入鹿の身の上を悲嘆す 三九ノ五

求馬の宿を尋ね 四八ノ一

求馬と道行 四五ノ八

歸館 四六ノ六

求馬と誓約 四六ノ三

淡海と祝言 四七ノ二

○立田の前

刈屋姫に邂逅 三四ノ一

刈屋姫を伴ひ歸る 三五ノ二

貞心 四二ノ九

最期 四三ノ三

○玉折姫

父より迎の使者を切る 六七ノ二

敦盛と祝言 六九ノ一

平山末廣に殺害せらる 六八ノ三

敦盛卿の首へ死別 六八ノ三

最期 六八ノ二

チ

○忠孝

蟹忠義 七〇ノ一〇

義心の根ざし 二三ノ九

狐の孝 一九ノ四

孝と夫婦 六五ノ二〇

三代の忠臣 四九ノ四

主君と親と養父 六二ノ九

忠義の武士は絶え果てん 一七ノ五

忠臣 二六ノ四

忠臣の鑑 二八ノ三

身代り 九六ノ一〇

○恥辱

○地名 馳と天窓はかき次第

尼ヶ崎	一三ノ八
稲村が崎	三〇ノ二
石清水	二八ノ五
扇が谷	二二ノ一
岡崎	五〇ノ二
祇園	二五ノ四
桐が谷	四八ノ六
郡山	五〇ノ六
嵯峨	八二ノ五
堺	二八ノ一
鈴の森	六五ノ八
須磨	六六ノ七
芹生の里	八五ノ二
那須野	三〇九ノ二
沼津	五二ノ八
土師〔ハツ〕の里	六ノ三
濱松	六七ノ三
伏見	六八ノ四
安井	三〇ノ二

山科

○千代

父の七十の賀に参る

子の寺入

小太郎の身代り

○町人

武士も及ばぬ町人

弓引くより算盤の利合

を引け

○津田兩助

テ

○貞

貞節

貞女の心

貞女兩夫に見えず

○鐵が嶽

岩川を足蹴にす

岩川に投げらる

二七ノ一

六〇ノ二

八五ノ二

九四ノ九

二九ノ二

三二ノ六

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

三三ノ二

禮三へ意趣晴し

闇打せらる

○天地―天地より見たる親

子

○天智天皇

御憐

采女の跡を慕ひ給ふ

入鹿叛逆の注進

假行在所

采女に對面

○天蘭敬

○寺岡平右衛門

妹おかるを斬る

由良助の供を許さる

夜討

○輝園

參内の御供

道眞流罪の警固

法皇の御使

三五ノ一

三六ノ八

四三ノ二

四三ノ二

三五ノ三

三九ノ九

四〇ノ二

四〇ノ九

四九ノ二

二ノ五

二六ノ三

二六ノ二

三〇ノ三

一ノ八

三〇ノ三

九八ノ五

九八ノ五

ト

○動物

爪黒の女鹿

四〇一ノ五

鷄の一徳

四三〇ノ二〇

名牛

七五〇ノ二

宵啼する鷄

四一〇ノ九

○東方朔

○齋世

參内

醜酏帝の名代

一〇ノ八

刈屋姫と契る

四〇ノ一

刈屋姫と落ち給ふ

八〇ノ九

刈屋姫と道行

二二ノ九

刈屋姫と離別

二六ノ一

○となせ

山科に由良助を訪ぬ

二七四ノ二

力彌小浪の祝言

二七九ノ六

○戸浪

菅丞相並に御臺所に拜

一六〇ノ一

顔

一六〇ノ一

菅秀才を盗出す

二六〇ノ三

二

○仁右衛門

六七〇ノ五

○錦木

三三〇ノ七

馴染客の禮三

三五〇ノ一

二度の勤

三五〇ノ二

密に禮三に會ふ

三六〇ノ三

禮三郎の宅へ忍ぶ

三七〇ノ九

親子の別れ

三七〇ノ三

禮三郎と心中を計る

三七〇ノ二

禮三郎の妾となる

三七〇ノ二

ヌ

○沼津李之進

六七〇ノ五

ハ

○土師の兵衛

四〇〇ノ六

悪計露見

四九〇ノ三

○早野勘平

三二〇ノ二

鹽治判官の御供

三二〇ノ二

千崎彌五郎へ連判加名

の懇望

誤つて定九郎を撃つ

二三八ノ四

おかるとの別れ

二四八ノ二

切腹

二五三ノ三

連名を許さる

二五四ノ一〇

○逸見藤太

二五九ノ二

○原郷右衛門

二六〇ノ四

判官の閉居勤務

二五三ノ二

勘平を責む

二八七ノ五

天河屋義平を訪ふ

三〇〇ノ四

夜討

三〇〇ノ四

○春

嵯峨の御臺に侍す

八二ノ五

父の七十の賀に參る

六〇ノ二

ヒ

○筆道

手習指南

一八〇ノ一

筆法の大事

五〇ノ二〇

筆法の傳授

二〇ノ三

○雛鳥

清舟を戀す 三九ノ二四
妹山の假屋の雛祭 四三ノ五

背山の久我之助を戀ふ 四三ノ二

母の入内勸誘 四三ノ六

生害 四〇ノ二〇

○平山武者所未廣 六三ノ二三

京の君畧奪 六三ノ二三

術策 六七ノ二

玉折姫殺害 六八ノ五

頼朝兄弟へ謀叛 七五ノ二〇

○比喩 七五ノ二

男女の花の見立 四五ノ九

不縁 二七五ノ二四

雪 二七三ノ八

フ

○夫婦

後妻の義理 二七八ノ七

師の恩と離別 六九四ノ五

釣合 六四六ノ一

女房を去る七つの法 六五ノ二〇
嫁の鑑 六三ノ三

○鱧七 四七ノ二〇

入鹿の館へ使者 四六九ノ八

お三輪を刺す 四七〇ノ二

物語 四七〇ノ二

○武具 命を滅すも刃命を助か 六六ノ二三

るも亦刃 二五ノ九

七つ道具 五五ノ九

○武藝 眞影流 六七ノ八

射法 二六ノ三

○武士 意地 四九ノ二

同 六六ノ四

慈悲 四八七ノ八

武士が立たぬ 五六ノ二

武士の曠業 二四ノ五

武士は相身互 一三五ノ二四

武は戈を止む

○藤の局 六七ノ一
敦盛の出陣を祝ふ 七〇ノ三

敦盛秘藏の青葉の笛 七〇八ノ一〇

梶原の追手 七二ノ九

熊谷の陣へ難を免る 七二ノ九

熊谷の物語 七二ノ二

青葉の笛を吹く 七二ノ九

熊谷の仁心 七三ノ九

○藤原鎌足 三七ノ二

讒せらる 四二八ノ一〇

采女の保護 四七四ノ七

○藤原淡海 三九ノ七

帝へ奏聞 四四九ノ六

假名求馬 四四八ノ一

橋姫のおとづれ 四五三ノ七

橋姫の跡を慕ふ 四六四ノ七

橋姫と誓約 四七四ノ七

入鹿誅伐 四七五ノ三

橋姫と祝言

○藤原時平

權勢に傲る

一ノ六

吉田へ參籠

五ノ七

菅秀才を奪ふ

九ノ八

最期

一〇ノ二

○藤原朝方

專横

一〇三ノ五

奸計

一〇六ノ七

○佛閣

安樂寺

七ノ四

圓覺寺

四九ノ二〇

吉祥寺

五三ノ二

光明寺

二三ノ五

道明寺

五ノ六

○佛教

因縁

五ノ八

僧と女

五八ノ〇

菩薩の行

五九ノ七

法華經の功力

六〇ノ一〇

六道物語

一四ノ三

○平作

沼津の住家

五三ノ二

自害

五七ノ二

ホ

○譽田大内記

能奉納

五〇ノ七

賢慮

五二ノ四

マ

○松王丸

名の由來

六ノ五

車争

五ノ九

容貌

三ノ一

父の七十の賀に至る

六ノ九

梅王丸と争論

六ノ一

父へ願書

七ノ五

御臺の危難を救ふ

八四ノ三

菅秀才の首實檢

九三ノ一

眞意

九四ノ四

○希世—最期

一〇ノ五

ニ

○彌陀六(宗清參照)

住居

六九ノ五

敦盛の石塔を建つ

七〇ノ四

義經に見やぶらる

七三ノ一〇

平家の運命を語る

七四ノ四

○道行

お千代半兵衛

六四八ノ三

刈屋姫齋世の宮

二七ノ八

菊の前

七八ノ二

靜御前

一七五ノ二

錦木禮三郎

三七ノ一

橘姫求馬

四五ノ一〇

となせ小浪

二七ノ四

○源義經

後白河院へ八島合戦の

一〇三ノ八

次第奏聞

一〇六ノ八

恩賞の鼓

一〇七ノ二

賴朝追討の院宣

一一三ノ三

堀川御所

一一三ノ三

川越太郎重頼の直談 一七〇、七
 平家に對する劃策 一八〇、七
 迷懷 二一九、一
 海野土佐坊の攻軍 一三三、三
 都落 二二三、五
 初音の鼓を靜御前に與ふ 二二八、二
 靜御前との別離 一三三、一
 大物浦出船 一三八、九
 安徳帝の入水を救ひ奉る 一四〇、四
 知盛と會見 一四〇、六
 大和に忍ぶ 一八四、三
 靜に對面 一八八、四
 初音の鼓を狐に賜ふ 一九五、五
 教經と戰場の再會を約す 二〇三、一
 平家討伐の評議 六五七、二
 軍慮 六五九、二
 北野天満宮へ日參 六六三、二
 京の君自害 六六四、九

身代りの敦盛の首實檢 七三〇、三
 彌平兵衛宗清を見やぶる 七三三、二〇
 敦盛を密に彌陀六に渡す 七三三、三
 平時忠の謀叛を看破す 七五二、二〇
 叛臣誅伐 七五三、二三
 ○源頼朝 七四九、四
 ○宮越玄番—雛鳥へ横戀慕 三八一、七
 ○三善清貫 三三、八
 菅丞相と爭論 二〇〇、七
 電火に死す 二〇〇、七

ム

○武藏坊辨慶 一〇五、三
 藤原朝方へ暴言 二二三、二四
 海野太郎を討つ 二二三、二四
 土佐坊を生捕る 二三四、四
 勇力 二三五、三
 義經の跡を慕ふ 二二七、三
 性格 二二七、三

尼ヶ崎に宿す 一三三、三
 ○宗清(彌陀六を見よ) 三三五、六
 ○村岡團右衛門 三四七、九
 禮三に金を用立つ 三五二、三
 お才に無體の戀慕 三三七、九
 舊惡露見 三三七、九
 縛せらる 三三七、九

メ

○めどの方 三八九、五
 夫の身の上を悲嘆す 三九二、二〇
 蝦夷子の謀叛諫言 三九二、二〇

モ

○求馬(モトメ)(藤原淡海を見よ) 二〇七、六
 ○桃井若狹助安近 二二二、一
 高師直と爭論 二二六、七
 館 二二六、七
 師直に對する底意 二三四、四
 師直の謝罪 二三四、四
 由良助の復讐に駭著く 三〇五、七

ヤ

○八重

戀の取持

八ノ六

父の七十の賀に參る

五九ノ二

自害を企つ

七四ノ九

嵯峨の御臺に侍す

八二ノ五

○藥餌陀羅輔

一四八ノ二

○藥師寺次郎左衛門

二二ノ二四

判官館へ上使

三〇五ノ一〇

○彌左衛門

維盛卿を圍ふ

一六三ノ三

權太を手討す

一七〇ノ八

○彌助(平維盛を見よ)

○山田幸兵衛

住宅

五四六ノ二

唐木政右衛門を救ふ

五五四ノ八

唐木政右衛門に邂逅

五五五ノ七

返忠

五六五ノ三

○山脇十藏

住宅

六二七ノ三

自害を企つ

六四ノ一

○山脇半兵衛

沼津李之進に辱めらる

六二八ノ二

果合ひを企つ

六三三ノ三

父へ誓言

六三九ノ九

劍難の相

六三六ノ五

お千代に遇ふ

六三九ノ三

お千代を携へて歸る

六三七ノ八

嘉兵衛の諫言

六四二ノ四

道行

六四八ノ二

ユ

○遊戯

合せ骨牌

三三七ノ二

めんないちどり

五八七ノ三

○遊藝

狂言狐釣

三〇七ノ一

狂言の稽古

五三三ノ五

藝は身を助ける

一七ノ四

素人淨瑠璃

四三ノ八

○遊女

瀬川

四七九ノ二

錦木

三二ノ七

○雪

忍ぶ戀路

六〇〇ノ八

山科

二七三ノ一

雪見の宴

三八四ノ二〇

夜道

五四六ノ五

○夢

靈夢

七七ノ八

怪夢

八三ノ一

ヨ

○容貌

劍難の相

六六ノ五

三つ子

六二ノ四

○よつ—お才を預る

三〇ノ七

リ

○離別

主従の離別

二ノ八

相思の男女 三三ノ二
報恩の爲の離別 六九ノ五

レ

○禮三郎
錦木太夫の許に通ふ 三三ノ七
勘當 三七ノ九
村岡團右衛門に騙らる 三八ノ四
九平太に仕返し 三三ノ五
鐵が獄の意趣晴し 三五ノ一
お才と假住居 三七ノ六
密に錦木に會ふ 三三ノ三
死の覺悟 三六ノ二
我家へ歸る 三六ノ七
錦木と心中を計る 三七ノ三
冤罪晴る 三七ノ九
お才を本妻に錦木を妾とす 三七ノ一

○蓮生(熊谷直實参照)

ロ

○牢 六〇ノ二
○浪人―生活 一六ノ九
○六代御前―北嵯峨の草庵 二〇ノ五
○六彌太―平山を討つ 七五ノ二

ワ

○若葉の内侍 一〇ノ八
北嵯峨の草庵 二二ノ二
嵯峨を落つ 一四ノ四
吉野著 一六ノ四
維盛卿に邂逅 一六ノ二
○脇田半兵衛―心中 六五ノ二
○和田志津馬 四七ノ四
假家守護 四八ノ二
醉態 五〇ノ八
切腹を圖る 五三ノ五
關所通過の手段 五四ノ五
お袖に誘はれて山田幸兵衛宅に入る 五五ノ一
敵探索の方便 五六ノ一
唐木政右衛門に邂逅 五六ノ三

眼病 五六ノ五
瀬川と伏見に假寓 五八ノ五
敵澤井股五郎の行方を知る 五七ノ三

敵討
○和田行家―最期 四八ノ二
○和樂―相嫁同士 六〇ノ二

出處半二 淨瑠璃傑作集索引終
海音宗輔

